

言葉の響きの美しき――。

素謡 能の台本を謡い語る

仕舞 能の一部を紋付袴姿で舞う

春の素謡と 仕舞の会

仕舞の会

標梅花の光を並べては
娑婆の春をあらはし

山姥
Yamanba

井上 裕久

砦
Kinuta

梅若 桜雪

采女
UHEME

片山九郎右衛門

養老
YOROU

味方 團

月の色風の気色

龍の舞も声澄みて
春楽聞え花降りぬ

寺まづ述ぶ曲水の
月に声澄む

花に清香月に蔭

積る桜の雪の庭

月に啼け同じ雲居の
ほととぎす

日時 令和5年 3月12日(日)
午前11時 開演 (10時30分開場)

会場 京都観世会館
京都市左京区岡崎円勝寺町44

入場料 一般前売 4,500円
一般当日 5,000円
学 生 2,500円
全席自由席

※通信講座受講生、放送大学、老人大学は一般料金

●チケットのお申込みは、
お電話またはチケット販売サイトにて承ります。



春の素謡と仕舞の会

令和五年三月十二日(日)
午前十一時開演(十時三十分開場)

養老

河村浩太郎

味方 團 松野 浩行

地謡
谷 弘之助
河村浩太郎
河村和貴
梅田嘉宏
河村和貴
味方 團
河村和貴
味方 團
河村和貴
味方 團

仕舞
兼平
雲林院クセ
籠太鼓
春日龍神

(二時五十分頃)

山姥

深野 貴彦

井上 裕久 林 宗一郎

地謡
寺澤 拓海
深野 貴彦
大江 泰正
吉田 篤史
橋本 光史
井上 裕久
大江又三郎
林 宗一郎

採女

片山九郎右衛門 吉浪 壽晃

地謡
樹下 千慧
河村和晃
宮本茂樹
田茂井廣道
浦部 幸裕
浦田 保親
片山九郎右衛門
吉浪 壽晃

休憩二十分

仕舞

白楽天 河村 晴道
誓願寺キリ 武田 邦弘
笹之段 河村 晴久
船弁慶キリ 河村 和貴

砧

ツレ片山 伸吾

梅若 桜雪 橋本擴三郎

地謡
大江 広祐
橋本 忠樹
片山 伸吾
大江 信行
分林 道治
味方 玄
梅若 桜雪
浦田 保浩
橋本擴三郎

休憩二十分

(終了予定 三時四十分頃)

主催 公益社団法人 京都観世会

*時間はおまの目安です。

素謡とは

能の台本(謡本)を、舞台上で謡う演奏形式です。謡うこと、語ることで情景や心情を表現します。能には「源氏物語」や「平家物語」などの古典を題材にした名作が多く伝わっており、詞(詞章)の美しさは高い評価を得ています。素謡は、その「謡うこと、語ること」のみのシンプルな表現の面白さから、大正の頃より大変な流行となりました。また、京都には歴史的に「京観世」とよばれる「素謡」の文化があります。江戸初期寛文の時代、服部宗三(九世観世大夫黒誓の弟、服部権元)の息のちに福王盛親が、西陣にあってといわれる観世屋敷で謡の教授をしたのが始まりです。以後、京都では能だけでなく、人々が謡だけをたしなむ「素謡」というジャンルが好まれ、連綿と受け継がれてきました。戦前は、京の辻々で謡の音がよく聞かれたようです。情緒豊かな「素謡」をライブでじっくりと聴いてみてください。

仕舞とは

能の一部(見せどころ)を、紋付袴姿で、謡にあわせて舞う演奏形式です。ほとんどの曲は扇を持ちますが、演目によっては長刀や杖などを持つものもあります。舞い手の骨格が見えやすいため、能のデザインと評され、演者の個性と技を楽しまれます。数分の演技で能の醍醐味が味わえるのが仕舞です。

養老

雄略天皇の頃、濃州(美濃)の本巣という所に不思議な泉が出ると聞いた天皇は、勅使を遣わして検分を命じます。本巣に着いた勅使は、老人と若者に出会います。老人の息子であるその若者は朝夕山に入って薪を採って両親を養っていました。ある時、山路に疲れてこの水を飲んだところ、さわやかに若返ったのです。老を養うところから養老の滝と名がついたといわれます(養老とは敬老の意を含む)。老人は滝壺を指し示し、養老の滝から湧く水の水を讀みます。そのうち天から音楽が聞こえ、花が降り、山の神が現れて御代のためたさを祝福します。世阿弥作。

砧

九州戸屋の某は、訴訟のために京にすいで三年、留守を守る妻の元へ、この秋には帰るとの知らせを持たせ夕霧を遣わします。妻は夫の永い不在の寂しさを慰めるように夕霧を相手に砧を打ちます。蘇武の妻が夫を想い打った砧の音が胡国の蘇武に届いた、という中国の故事を引き、一心に砧を打ちます。砧の音に寄せて、吹く風、月の色、牡鹿の声、虫の音、置く霧...と、物悲しい晩秋の情趣が謡われます。そして、霧が落ちるようにはほろほろはらはらとこぼれる涙。しかしやがて、暮れにも夫は帰れないとの知らせが届き、妻は絶望のうちに命を落とします。妻の死を知って急ぎ帰った夫の前に妻の怨霊が現れ、夫の心変わりを買め立てますが、法華経の力で成仏します。世阿弥作。

採女

春の奈良・春日の里が舞台。世阿弥作ともいわれます。都からやってきた諸国一見の僧は、現れた一人の女性が猿沢池へ誘われ、用いを頼まれます。女性曰く、昔ある採女が帝に恋したことが叶わずこの池に身を投げた。さらに「吾妹子が寝ぐたれ髪を猿沢の池の玉藻と見るそ悲しき」の歌は帝がこの採女に対して詠んだ歌で、自分こそがその採女の霊であると言いや、池水の底に姿を消します。僧が夜もすがら法華経を讀んでいると、池の中より採女の霊が再び現れ、法華経が読くと「変成男子龍女成仏」により成仏して極楽に生まれたいことを述べます。そして、採女の逸話を話し、昔の帝との「一曲の宴」を思い起こし、御代を祝福し、再び池の底へ消えていくのでした。

山姥

越後国が舞台。世阿弥作ともいわれます。都に、山姥の曲舞を得意とする百萬山姥と呼ばれる遊女がいました。従者を連れて日暮れに参る途中、上越越にさしかかると、突然な女が現れ、宿を貸さうと庵に案内します。庵に着いた一行に、女は、自分こそが山姥であると明かし、月の出るころに謡えば真の姿を現そうと謡って姿を消します。すると、まわりは瞬く間に明るくなります。夜が更け、一行の前に現れた異様な姿の山姥は、約束通り舞い、山姥の本性を語ります。そして深山の光景、山姥の境涯を語り、山また山を廻りながら姿を消すのでした。

春の素謡と仕舞の会

日時 令和5年3月12日(日) 午前11時開演(10時30分開場)
会場 京都観世会館 京都市左京区岡崎円勝寺町44
入場料 一般前売 4,500円 一般当日 5,000円 学生 2,500円

※新型コロナウイルス感染拡大防止の為、館内では必ず「マスク着用」をお願いします。
※体調が優れない場合は、ご来館前に医療機関にご相談願います。
※上演中の写真撮影・録音・録画はお断りします。
※携帯電話の着信音・時計のアラーム音が鳴らないよう、あらかじめ電源をお切りください。
※都合により出演者に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。
※お車の方は、会館東隣りの駐車場、または岡崎公園市営駐車場をご利用ください。
※公演中止の場合を除き、入場券払戻はできません。



【交通アクセス】

JR京都駅から

- 地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」にて地下鉄東西線に乗り換え、「東山駅」下車、①番出口より徒歩約5分
- 京都駅前バスのりばA1より市バス5系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車、D2より86・206系統「東山仁王門」下車(乗車時間約30分)

四条河原町から

- バスのりばEより市バス31・46・201・203系統「東山仁王門」下車(乗車時間約15分)

京阪三条駅から

- 市バス5系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車
- 地下鉄東西線に乗り換え、「東山駅」下車